

[フーケ]
bouquet



教育有景

おしえ・そだてる日々

学校とは異なる環境で、教育活動を行っている先生を紹介する本連載の第4回は、岩手県紫波町で、野村胡堂・あらえびす記念館館長を務める岩崎雅司先生にお話を伺いました。



岩崎雅司
野村胡堂・あらえびす
記念館 館長

胡堂・あらえびすの遺徳が息づく場所

— 岩崎先生は、いつ頃から野村胡堂・あらえびすに興味をもちましたか？

中学生の頃です。ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」を聴いてクラシック音楽にひかれた私は、当時レコードを聴くことができた盛岡市立図書館によく通っていました。そのとき、音楽図書のコーナーで手に取ったのが、あらえびす著『名曲決定盤』でした。たくさん名曲が紹介されていて興味深く読んだ記憶があります。それがあらえびすとの最初の接点です。その後、指導主事として紫波町に赴任した際、この記念館を訪れて野村胡堂・あらえびすの大きな業績について詳しく知りました。

— 作家である野村胡堂と、音楽評論家のあらえびすが同一人物であることを知り驚きました。岩崎先生を感じるあらえびすの魅力とはどのようなものでしょうか？

西洋音楽がまだ一般的でなかった昭和初期にいち早くその価値を見だし、その感動を持ち前のペンの力で世に伝えようとしたのが「あらえびす」です。彼は、当時広まってきたSPレコードを通して西洋音楽にひかれていきました。それは新聞記者として得た給料の大半をレコードにつき込むほどで、収集したレコードは2万枚ともいわれています。特別な音楽教育を受けていないあらえびすでしたが、作曲家一人一人の詳しい生い立ちや時代背景までも把握し、西洋音楽史を俯瞰するかのような視野の広さと深さ、核心を捉えたレコード批評は、時代を経た今でも評価されるべきものだと思います。

— こちらの記念館では常設展だけではなく、講座やイベントなども企画されているのですね。

「野村胡堂」と「あらえびす」2つの名を冠した記念館ですので、文学と音楽に関連するさまざまな企画を開催しています。当館の「あらえびすホール」では、あらえびす旧蔵のSPレコードを最高峰の蓄音機「ビクトロラ・クレデンザ」で聴く「あらえびすレコード定期コンサート」をはじめ、生演奏によるコンサートも開催しています。また、全国から寄贈していただいたLPレコードを鑑賞する「蔵出し アナログ・レコードの時間」というコンサートも始めました。

— 「蔵出し アナログ・レコードの時間」は、どのような思いで始められたのですか？

寄贈していただいたレコードは、熱心な音楽愛好家の方が一枚一枚大切に収集し、愛聴してきた貴重なものばかりです。それを眠らせたままにするのは惜しいという思いと、ホールには蓄音機の他にも最高品質のオーディオ装置が備えられており、それらを活用してより多くの皆さんに音楽を楽しんでほしい



▲レコードに鉄針を落とす。盤面に刻まれている溝を針が読み取り、ホーンで拡大して音楽が流れる。記念館では野村胡堂・あらえびすが愛したSPレコードの音色を体験できる



▲記念館からの景色。胡堂の生まれ故郷を眺望できる景勝の地に建築されており、四季折々の風景を楽しむことができる

いという思いから始めました。クラシック通の方からふだん音楽になじみの薄い方まで、幅広く楽しんでいただけるように毎回趣向を凝らし、変化に富んだプログラムを心がけています。スクリーンにはワンポイント解説やあらえびすの音楽批評の文章などを映し出すことでその意味を実感しながら、音楽経験を深めていただきたいと思います。

音楽とじっくり向き合うために

— こちらでは、地域の子どもの学習支援も行っていると伺いました。

以前から社会科見学や総合的な学習の時間で小・中学校が当館を利用してきましたが、一昨年度から「学校支援プログラム」として位置付け、私が音楽鑑賞の学習も行っています。昨年度は小学校4年生から中学校3年生まで実施しました。「あらえびすホール」の音響設備や大型スクリーンを使いながら、学校の音楽室ではなかなか実現できない理想的な環境で鑑賞の授業を行うことができます。

— このすばらしい環境で聴けるというのは貴重な経験ですね。授業では、どのようなことを心がけていますか？

子どもたちの感じ方や発言を共感的に受け止め、違いも含めて共有しながら学習を進めることで、主体的に音楽と向き合い、受け止めることができるようにしています。また、ここでの学習を単発のものにするのではなく、学校での学習と関連付けて系統性をもてるように教科書の学習内容に沿って実施し、引率の先生には簡単な指導案も渡しています。

— いつもと違うホールでの音楽鑑賞に、子どもたちも興味津々だったと思います。

もうほんとうに食い入るように聴いているのが伝わってきますし、帰り際には「よかった、また来たい」と言ってくれます。町で「胡堂・あらえびす大賞」という読書と音楽の感想文コンクールを行っています。でも、それにも、ここで聴いた経験をもとに書いた感想を寄せてくれますね。

— 音楽鑑賞の活動を通して、大切にされていることは何でしょうか？

いろいろありますが、音楽を聴くことは、決して受け身ではないということです。ただ聞き流すのではなく、作曲家や演奏家の表現を聴き取り受け止めることが、音楽と向き合ううえで大切だと思っています。例えば、レコードをターンテーブルに置いて、針を落として、ボリュームを上げて、そして耳を傾



▲「あらえびすホール」
蓄音機の最高峰「ビクトローラ・クレデンザ」(写真中央)とスピーカーの名器「ウェストミンスター・ロイヤル」(写真両端)、大型スクリーンを備えている



▲「学校支援プログラム」における鑑賞の授業の様子

ける……。音楽そのものには関係がなくても、音楽を求めてやっているこうした一つ一つの所作もまた、音楽とじっくり向き合うことにつながっていきます。子どもたちが学校から記念館に移動し、心の準備をしっかりとすうえで聴くからこそ得られる気付きもたくさんあると感じます。

自分の一步を大切に

— これまで音楽教育に深く携わってこられました
が、あらためて先生の教育現場での歩みを教えてください。

中学校の音楽科教員として3校に勤めた後、行政機関に異動し指導主事などを経て、校長となり3つの中学校に赴任しました。定年退職後は、盛岡市教育委員会の教育研究所に2年間勤務し、市の教育課題についての調査や研究にあたりました。

— 学校生活で思い出に残っていることはありますか？

赴任したどの学校にも思い出がたくさんあります。音楽科の教員をしていた頃は、部活動にも力を注ぎ、地域の協力を得ながら吹奏楽部の演奏会を開催したり、教諭として最後に赴任した盛岡市立厨川中学校では、創立50周年記念事業として合唱曲（混声合唱組曲『ぼくら・風の三郎』片岡輝：作詞、平吉毅州：作曲）を委嘱し、全校生徒850名で初演に挑戦したり

しました。参考とする音源もない中、たった数か月で全3曲からなる組曲を、詩の読み取りから音取り、そして暗譜で歌えるようになるまで全校生徒で仕上げました。今思うと、どうしてできたのか不思議なくらいです。

— 生徒と一緒に頑張って奮闘されたのですね。

当時の取り組みの記憶もあまりないほど無我夢中でした。周りの先生方の協力も大きかったと思います。校長になってからも、吹奏楽部に行くときは自分のクラリネットやサクソを持っていき生徒と一緒に演奏したり、石川啄木を題材とした「群読劇」を先生方とともに立ち上げたりしました。校長として最後の赴任となった盛岡市立河^{かなん}南中学校では、全国的にも増加傾向にある不登校の問題に取り組み、「まず安心 わかった・できたを どの子にも」をスローガンに掲げ、不適應の生徒が安心して学ぶことのできる少人数指導学級、個別指導学級を開設しました。400名を超える学校ですが、完全な不登校の生徒はなく、さまざまな事情を抱えた生徒たちも学校に足を運んでくれました。

— 長年子どもたちを見続けてこられて、感じることはありますか？

やはり子どもの成長はすごいなと感じます。3年たつと体も心も見違えるように成長して力を付けていきますよね。ただ、自分の一步を大切にしてほしいとも思います。今は、世の中の変化が速くてせかされているように感じることもあります。子どもたちは周りの人と比べて焦ったり、親からの期待を過敏に感じたりしがちですが、人それぞれ身長が違いうように、じっくり自分の速さで成長していくことがいちばん大事ではないでしょうか。その一步一步を認め、励ますことが教員にとって大切なことだと思います。この記念館でレコードやさまざまな音楽に触れてもらうのもその一つで、何かのきっかけになればいいなと思って続けています。



▲野村胡堂・あらえびす記念館の外観

野村胡堂・あらえびす記念館

〒028-3315 岩手県紫波郡紫波町彦部字暮坪193-1

TEL: 019-676-6896 FAX: 019-676-6897

E-mail: info@kodo-araebisu.jp HP: <http://kodo-araebisu.jp/>

開館時間 9:00～16:30 (最終入館は16:00まで)

休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始

入館料 一般310円、小中高生150円 (20名以上から団体割引有り)

※館内ギャラリーのみの場合、無料で利用可。 ※無料駐車場有り、大型バス利用可。



上野耕平の
CROSSING [クロッシング]

第18回

東海道新幹線車内コンサート



鉄道好きの音楽家としてこんなに幸せなことはあるのだろうか。東海道新幹線のぞみ号の16号車を貸し切り切りのコンサート。この日の夜は京都の平安神宮でコンサートがあり、その道中お客様と移動しつつ車内コンサートとともに楽しむという趣旨。

東京駅を出発し、新横浜駅を過ぎたあたりからコンサートをスタート。車内での演奏は想像以上に大変。揺れへの対応。何より驚いたのはトンネルでの気圧の変化だ。普段はそこまで感じないが、楽器をくわえて吹いた状態だと気圧の変化をモロに感じるのだ。沿線車窓の見どころを語りつつ、岐阜羽島駅を通過するあたりまでイベントは続いた。

あっとい間時間の時間。音楽は、いつもの車窓をより特別に。

文・写真：上野耕平（うえの・こうへい）

東京藝術大学器楽科卒業。第28回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門第1位・特別大賞（史上最年少）。2014年第6回アドルフ・サクソ国際コンクール第2位。17年度第28回出光音楽賞、18年第9回岩谷時子賞奨励賞受賞。常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォンの可能性を最大限に伝えている。The Rev Saxophone Quartet、ばんだウインドオーケストラコンサートマスター。NHK-FM「X（かける）クラシック」の司会やテレビ「題名のない音楽会」「情熱大陸」など、メディアへの出演も多い。鉄道と車をこよなく愛し、深く追求し続けている。

Information

◇上野耕平コンサート情報はこちら。
<https://uenokohei.com/concert/>
（上野耕平公式サイトより）

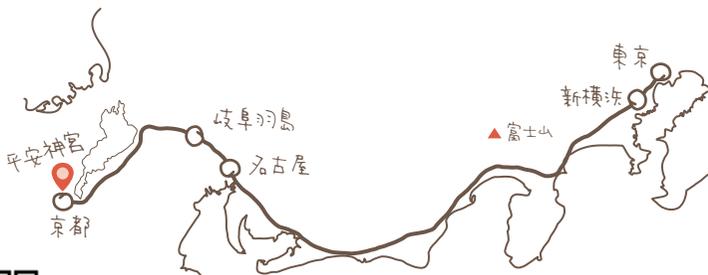


編集部メモ

「上野耕平と行く桜音夜」は、
京都の平安神宮で2024年4月3日～7日に開催された
「平安神宮 桜音夜」とコラボした特別企画コンサート。
東京駅10時39分発のぞみ333号を1両貸し切り、
京都駅に到着するまでサクソフォン演奏や
トークショーが行われた。



コンサートの様子を動画でご覧いただけます。



One day, [ワンデー ワンモーメント] one moment

フォトエッセイ

写真・文：ヒダキトモコ

Photo・Text：Tomoko Hidaki

20 枚目

地球の胎内

初夏の米国アリゾナ州のアンテロープ・キャニオン。ネイティブ・アメリカンのナバホ族の居留地に位置し、もともとナバホ族の少女が一匹のアンテロープ（ウシ科の動物）を追いかけた先に偶然、たくさんのアンテロープが生息するこの壮大な岩の裂孔を見つけたのだという。その美しい形状は、雨が降れば徐々に削られ、今も絶えず変化し続けているらしい。

赤い岩に刻まれる、一つ一つの薄い線状の地層ができるまでの永い年月を思うと、鉄製の階段をゆっくり踏みしめて登っていく人々が、小さく儂い存在に感じられた。足音が途絶え、一瞬静けさが広がったとき、まるで地球の胎内に抱かれている気が見上げると、裂け目の奥の空に、まぶしく白い太陽が輝いていた。



ヒダキトモコ

フォトグラファー。日本写真家協会(JPS)、日本舞台写真家協会(JSPS)会員。米国で幼少期を過ごす。慶應義塾大学法学部卒業。人物写真とステージフォトを中心に撮影。ジャケット写真、雑誌の表紙・グラビア、各種舞台・音楽祭のオフィシャル・フォトグラファー。官公庁や経済界の撮影も多数。
<https://hidaki.weebly.com> Instagram : tomokohidaki_1,2,3



日本めぐり

本連載では、日本各地で文化や芸術を支えている方々取材します。

第10回は、福岡県久留米市にある浄土宗大本山善導寺を訪ね、執事の大西文生さんにお話を伺いました。

第10回 福岡県久留米市

大西文生 善導寺執事

開山800年の歴史を誇る善導寺は、筑紫箏、箏曲発祥の地として知られています。北側に九州最大の河川筑後川、南側に耳納連山を望む豊かな自然に囲まれた善導寺が、どうして箏曲発祥の地、箏曲関係者の聖地と呼ばれるようになったのか、そのルーツを探ります。

賢順から受け継がれる箏曲の歴史

— 善導寺が箏曲発祥の地といわれるゆえんについて教えてください。

大西…善導寺の僧、諸田賢順（1534〜1623）に由来するものです。箏、鐘、箏、箏などを用いた古来の雅楽は、仏教とともに日本へ伝来したといわれています。臨終の際に仏様がお迎えに来ることを来迎と言いますが、この来迎を説いたお経の中に「極楽の音色が聞こえる」「香りがする」と書かれた部分があります。香りはお香を焚くことで例えられ、仏教においてお香の香りは一番の功德があるといわれています。お葬式では必ずお焼香をし、お香代を意味する香典を持っていきますよね。極楽の音色とは、仏菩薩が現れるとき、美しい音色が響き渡るといわれています。仏様や菩薩が迎えに来る様を描いた来迎図



大西文生（おおにし・ぶんしょう）

長崎県平戸市法樹寺、浄土宗大本山善導寺に約30年奉職。現在は大本山善導寺執事、大本山善導寺布教師会幹事長、総本山知恩院布教師、大本山善導寺布教師。

には、やはり鍾や箏、太鼓を持った菩薩の姿が描かれています。

— 仏教と音楽は古くから密接なつながりがあったのですね。

大西…賢順が7歳で善導寺において剃髪、出家した当時、善導寺では箏や琵琶、笛などで伴奏を付けて読経する音楽法が行われていたとされています。このときに賢順は箏と出会ったのです。当時は全ての楽器で一つの楽曲を織りなす、いわばオーケストラのような演奏が主流で、箏が単独で楽曲を奏することはありませんでした。そんな中、箏にみいられ、箏を初めて雅楽の中から独立させたのが賢順だったのです。その後、彼の弟子である法水と玄恕により、箏曲は広まっています。法水は還俗したあと江戸にて琴糸商を営む傍ら、八橋検校に箏を教えました。その後、長崎の慶嚴寺で住職をしていた玄恕に検校を紹介し、そこで検校が手ほどきを受けて作曲されたのが「六段の調」だと伝えられています。

— 教科書にも掲載されている有名な楽曲です。

大西…この「六段の調」を京へ奉納し、箏曲が全国に広まったというわけです。余談ですが、京都の銘菓「八ッ橋」は、八橋検校にちなんで生まれたお菓子で、箏の形をしています。

— 生ではなく硬いほうの八ッ橋ですね。確かに、あらためて見ると箏の形をしています。



本堂に安置された阿弥陀仏と25体の来迎像



善導寺三門

大西・山田流や生田流といった流派が出てくるのはまたこの後の時代のことですが、こうした歴史を遡っていくと、ここ善導寺につながるわけです。

— 善導寺の僧、賢順についても少し教えてください。

大西・彼の生きた時代は戦乱の世で、幼いながらに出家し善導寺に行かなければならない事情があったようです。後に郷里が戦乱に巻き込まれたことにより、賢順は一族を連れて福岡県の英彦山に避難しています。最後は佐賀県の多久に移り住み、龍造寺家という肥前の国の大名家でお抱えの箏奏者として生涯を終えたようです。

— 賢順は当時の音楽家たる人物だったのですね。箏の譜面などは今も善導寺に残されているのですか？

大西・実はそれがありません。彼が箏に出会いその才能を発揮した場所が善導寺とされる記録は残っているのですが、戦乱の焼き討ちを経て当時の資料もろとも消失しています。なお、賢順が箏奏者として大成したのは多久に移り住んでからのことです。

* 一度出家した者が僧侶であることを捨て、再び俗人に戻ること。

地域交流を通じた歴史の伝承

— 箏にゆかりのある善導寺ですが、今でも箏や音楽に関連する取り組みはされていますか？

大西・現在は休会していますが、「善導寺ことくらぶ」というものがありました。毎年3月下旬に善導寺を開いた鎮西聖光上人の御遺徳を讃える開山忌大法要という大きな法要をやるのですが、善導寺は賢順にゆかりがあるということで、そこで仏様に箏の奉納を行うんです。その際、「ことくらぶ」に所属する子どもたちに箏を演奏してもらっていたのですが、少子化によって今はもうやらなくなっていました。そのかわり、今では当時の「ことくらぶ」の先生たちに箏の演奏を披露していただいています。

— どのような曲を演奏しているのですか？

大西・『春の海』や『六段の調』など、さまざまです。私は「庭儀式」という行事に参加していて、いつも聴けないのですが(笑)。子どもたちの演奏は15分ほどで、善導寺の法要に参加している皆様が喜んで聴いてくれました。

— 「賢順」の名を冠した箏曲祭があると伺いました。

大西・「賢順記念全国箏曲祭」は、毎年、久留米市の石橋文化センターで開催される箏曲演奏家の登竜門といえるコンクールです。箏曲祭に出演した全国の演奏家たちが、毎回善導寺にもお参りにいらしてください。

— 地域の子どもたちとの関わりなどもあったのでしょうか？

大西・善導寺小学校の児童は、善導寺が箏曲発祥の地ということで、音楽の授業で箏を弾いていますよ。社会科見学で子どもたちがここにくるときは、善導寺がなぜここに開かれたかという歴史や音楽法要について、また賢順によって箏曲発祥の地となった話などもします。

— 以前、久留米市内にある中学校の音楽の授業を参観した際、『六段の調』のところで生徒が「賢順さん」と発言していた姿が印象に残っています。こうした取り組みが子どもたちの教科の学びにもつながっていることを実感しました。最後に、この記事を読んでくださる全国の先生方や子どもたちに向けてメッセージをお願いします。

大西・音楽の授業を通して箏やその歴史に興味をもっていただけたら、一度善導寺にご参詣いただきたいと思います。写真やネットで得た情報と、現地に足を運んで得た情報とでは、やはり学びの質が異なりますから。九州にご縁がありましたら、ぜひお越しください。

浄土宗大本山善導寺

福岡県久留米市善導寺町飯田550

TEL 0942-47-11006

FAX 0942-47-3772



境内に建てられた箏曲発祥の地記念碑



善導寺内に祀られる賢順と箏曲関係者の位牌



中には箏などの楽器を演奏している像もある

「応援SONGコンテンツ」のご案内

これから新たな一歩を踏み出す全ての人へ——
希望と不安……

あなたの前の未来には、まだ見えないことがたくさんあり、戸惑いを感じることもあるかもしれませんが、でも、あなたはひとりじゃない

あなたのそばにはいつも音楽が寄り添っています
今までも、そしてこれからも

教育芸術社は、新たな一歩を踏み出す全ての人たちを、音楽の力で応援します！

もしもあなたの周りに、旅立ちを迎える人がいたら、この音楽を贈ってあげてください

皆さまの一歩が、素晴らしい未来へとつながりますよう



悩んだとき、

そっと背中を押してくれる曲

孤独なとき、

優しくそばに寄り添ってくれる曲

そんな歌を集めて、

歌詞付きの動画を公開しています

ぜひお聴きください

配信曲

- 桜、いってきます [混声三部] (前山田健一 作詞・作曲/富澤 裕 編曲)
- 星影のエール [同声二部] (GReeeeN 作詞・作曲/富澤 裕 編曲)
- 幸せ [混声三部] (山崎朋子 作詞・作曲)
- Believe [混声三部/ソロ] (杉本竜一 作詞・作曲/弓削田健介 編曲)
- ふるさと [混声三部] (高野辰之 作詞/岡野貞一 作曲/三宅悠太 編曲)
- 雨あがりのステップ [同声・混合二部]
(麻生哲朗 作詞/菅野よう子 作曲/アベタカヒロ 編曲)
- 歌よ ありがとう [同声二部] (花岡 恵 作詞/橋本祥路 作曲)

教育芸術社 Webサイト (<https://www.kyogei.co.jp/>) より

[お役立ち] → [学習支援コンテンツ] → [応援SONGコンテンツ] にアクセス！





本連載では、学校長を務められた先生が、これまでに学校で子どもたちに語り届けた講話をご紹介します。

第15回は、元大阪市立本田^{ほんでん}小学校校長の銭本三千宏先生が、コロナ禍の時期に児童、教職員、保護者に向けてつづった学校だより「本田っ子」より、2つの講話をお届けします。

銭本三千宏（ぜにもと・みちひろ）
大阪教育大学 教育学部高度教職開発部門 特任教授
元 大阪市立弁天小学校 校長
元 大阪市立本田小学校 校長

第15回 銭本三千宏 先生（元 大阪市立本田小学校 校長）

ベートーヴェン生誕250年に寄せて 希望を生み出す明るい教育の未来を

15年勤めた校長職のうち2020年3月2日から満期退職までの3年間は、
新型コロナウイルスへの危機対応に追われました。

臨時休校中の児童や保護者の皆様への毎日のメッセージや、
月1回発行している学校だよりの内容は、
得体のしれないウイルス感染への不安に対する心のもち方や、
他者への不寛容に陥らないためのハビトゥス*に
関するものがほとんどでした。

それらの中から、音楽にまつわる原稿を紹介いたします。

*日常経験や長期間にわたる行動の継続、繰り返しによってほぼ無意識に習慣化された知覚・思考・行為。

ベートーヴェン生誕250年に寄せて

みなさん、こんにちは。令和2年も師走を迎えます。

さて、1770年12月16日にベートーヴェンは誕生しました。ベートーヴェンの曲などじっくりと聴いたことがないという方もおられると思います。ぜひ、交響曲第7番の4楽章を聴いてください。全身からエネルギーがわきますよ。後世に残る名曲を数多く残したベートーヴェンですが、名言も多く残しています。

「大志ある才能と勤勉さの前に ここより進入禁止の柵は立てられない」

これは、私たち教職員の「本田っ子」への気持ちであります。

「神がもしこの世でもっとも不幸な人生を私に用意したとしても、私は運命に立ち向かう」

ベートーヴェンを見習って、コロナ禍の現況に勇気をもって立ち向かいましょう。

「一杯のコーヒーはインスピレーションを与え、一杯のブランデーは苦悩を取り除く」
上手にリフレッシュして、いいアイデアを創造しましょう。ただし、飲みすぎには注意（私自身への諫めです）。

「苦悩を突き抜ければ、歓喜に至る」

そうです。コロナ禍はいつか収束します。歓喜に至るできうる努力をしなければ。もし、ベートーヴェンが今の時代に生きていれば、何と言うでしょうか。

「真の敵は新型コロナウイルスではなく、人間の心に宿る悪、つまり、憎しみ、無知、強欲だ。人類が生き抜いてこられたのは、唯一、ヒトが多数のヒトと協力できる動物だからだ。きょうだいたちよ。物事を決定する力を手放してはならない。歴史の流れを定めるのは私たち人間だ」

ベートーヴェンはこんなメッセージを携えて壮大な交響曲をプレゼントしてくれるのではないかと思います。

(2020年12月 学校だより「本田っ子」より)



休み時間にジョン・バ斯顿作曲「リコーダー協奏曲」の演奏を楽しむ、リコーダーが大好きな6年生の児童

希望を生み出す明るい教育の未来を

みなさん、こんにちは。長雨が続いた夏休みでしたが、いかがお過ごしでしたでしょうか。今年もステイホームでしたが、掃除と音楽の練習、蔵書とCDやBlu-rayなどの音源の整理、少し手の込んだ料理、両親とのZoom会食、読書などが私の夏休みでした。読書では「OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来」という素晴らしい本に出会いました。また、「本田っ子」でダイジェストをお伝えしたいと思います。

音楽鑑賞もしました。以前にも「本田っ子」でお話ししましたが、今から100年前の1918～1920年にスペイン風邪によるパンデミックが起きました。1918年は4年間続いた第1次世界大戦の終戦の年です。—戦争とパンデミックで疲弊しきった人々はどんな音楽を聴いていたのか—こんなテーマで自分だけのステレオコンサートを行いました。

まず、1曲目。音楽の教科書にも載っているホルストの「惑星」。1918年9月にクイーンズ・ホールで初演されています。この曲の中の「木星」は「快樂をもたらす者」というサブタイトルのついた幸せな気分になる壮大な曲です。2曲目は、1918年に発表されたストラヴィンスキーの「兵士の物語」。ロシア人作曲家の曲ですがジャズやタンゴが取り入れられた軽快な曲です。第3曲は、1918年12月に初演されたプッチーニのオペラ「ジャンニ・スキッキ」。この中で歌われる「私のお父さん」は結婚の許しを父親に願う娘の心情がドラマチックに歌われています。最後はベートーヴェンの交響曲第9番、「喜びの歌」で有名な年末の風物詩となっている曲です。作曲されたのは1824年ですが、第1次世界大戦の捕虜として徳島県の「板東俘虜収容所」に収監されていたドイツ人^{ばんどうふりょ}が日本で初めてこの曲を演奏したのが1918年6月1日。彼らはどんな気持ちでこの曲を演奏したのか。当時の徳島の人々はこの曲をどう聴いたのか。

戦争とパンデミックという中でも、希望を生み出す明るい曲を創造し、演奏した先人を見習い、「本田っ子」や保護者のみなさまとともに希望を生み出す明るい「教育の未来」を創造したいと思いました。今学期もよろしくお願いたします。

(2021年9月 学校だより「本田っ子」より)



「本田小学校音楽会」における、ジャン・シベリウス作曲「フィンランディア」演奏の様子

Contents

- 04 [連載] 教育百景 おしえ・そだてる日々 第4回 岩崎雅司
- 07 [連載] crossing 第18回 上野耕平
- 08 [連載] フォトエッセイ One day, one moment 20 枚目 ヒダキトモコ
- 10 [連載] 日本めぐり 第10回 大西文生(善導寺執事)
- 12 「応援 SONG コンテンツ」のご案内
- 13 [連載] 次代につなぐ 校長先生の講話 第15回 銭本三千宏

編集後記

『bouquet[ブーケ]』No.20をご清覧いただき、ありがとうございます。
今号の連載「教育百景 おしえ・そだてる日々」は、岩手県紫波町で
野村胡堂・あらえびす記念館の館長を務める岩崎雅司先生にお話を伺いました。
聴きたい曲が簡単に手に入り、いつでもどこでも楽しめる昨今。
音楽とじっくり向き合うことのすばらしさを
教えてくださった岩崎先生のお話が心に残ります。
レコードについてのホコリを丁寧に取り除き、
専用のクリーナーで磨き、時間と手間をかけて、ようやく紡がれる音楽は
とても特別なものを感じられました。
お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力賜りました全ての方に、
心より厚く御礼申し上げます。

staff

Art Direction & Design(表紙・本文): 中澤美羽

DTP: 清新社 / 印刷: 新日本印刷

製本: ヤマナカ製本

No. 20

<https://www.kyogei.co.jp/>